

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0272400771
法人名	社会福祉法人 叶福祉会
事業所名	グループホーム大東ヶ丘
所在地	青森県五所川原市金木町芦野363-141 (電話)0173-54-1060
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年10月13日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年12月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 人, 常勤換算 6人	

(2)建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 8,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 7 名	女性 2 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 70 歳	最低 67 歳	最高 76 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	西北病院精神科 医療法人慈仁会尾野病院 長内歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは母体法人を中心にコミュニティとなっており、市街地から遠い地域との交流には不便であるが、体験学習やボランティア、実習生の訪問が多い。法人の夏祭は盛大で、盆踊り大会、地域芸能、出店など、学校の生徒や多くの市民300名程度の参加があり、地域の催しとして定着している。

数年に1回、法人内異動を行っており、日頃から法人内職員の交流を行うなど、異動による利用者への影響に十分配慮している。担当職員の異動や配置換え時には、利用者の状態に合わせて十分説明しているほか、引継ぎの際は資料やOJTで行っている。新人職員の場合は、1週間程度マンツーマンで研修を行っている。

年間研修計画を作成し、外部研修や年2回の法人内研修、毎月1回のホーム内研修を行い、受講の際は業務に支障が無いように配慮するなど、職員の育成に取り組んでいる。研修受講後は復命書を作成し、回覧しているほか、カンファレンスで伝達研修を行い、全職員に周知している。また、職員の業務に関する助言をする人材を法人内に確保している。

緊急時、感染症、拘束、虐待マニュアルや書類が整理、整備されている。

嗜好品アンケート調査を行ったり、選択メニューを実施するほか、行事食の他に2ヶ月に1度は外食に出掛け、利用者の食への満足度を高めている。

【特に改善が求められる点】

利用者は年々加齢され全身機能が低下していくので、重度化や終末期のケアについて方針を明確にすることに期待したい。

やむを得ず施設を行う場合に備え、家族等に説明し、同意を得る体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に、運営推進委員会で自己評価、外部評価の結果を議題として報告している。年間研修計画を作成したり、災害時の備えとして備蓄品を準備するなど、改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は評価のねらいや活用方法の意義を理解している。自己評価はカンファレンス時等に全職員の意見を取り入れ、管理者が作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度開催し、出席出来ないメンバーには会議録を持参している。会議中はメンバーから意見を引き出すよう、議題に沿って進行している。また、自己評価や外部評価の結果を公表し、改善策についての意見交換を行い、サービスの質の確保・向上に繋げている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族にホーム行事への参加を呼びかけているほか、家族面会時等に意見や要望を聞くようにしている。ホーム内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示し、玄関にも掲示している。出された意見等は職員間で話し合い、ケアサービスの向上に活かしている。</p> <p>利用者の日頃の生活状況や受診結果を、定期的に電話や広報誌で報告している。金銭管理状況は出納帳に記録するとともに、領収書を保管しており、定期的に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>コミュニティの利用者やボランティア、体験学習の学生、介護・保育の実習生を受け入れている。地域資源の活用のため、ホームでは文化祭への出展を行うほか、法人の夏祭には多くの住民の参加を得ている。また、利用者が買い物に出掛けると住民が気軽に声を掛けてくれるなど、地域交流に繋がっている。</p> <p>ホームに外部の方が訪れる際は、プライバシーの保護について説明するほか、利用者からも了解を得ている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「安全で安心して豊かな老後生活を送ることのできるホームの運営に努める」という独自の理念を玄関に掲示したり、申し送りに唱和することで理念を全職員で共有し、安心・安全なサービス提供を心掛け、日々のケアに反映させている。</p> <p>外出の機会を多くし、ボランティア、体験学習の受け入れや地域行事に参加するなど地域との交流を深める努力をしている。</p> <p>法人の内部研修やホーム内研修で、管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度についての概要を理解している。また、利用者や家族等に情報提供し、利用者の状況に応じて、必要時に活用できるように取り組んでいる。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>ホーム見学や自宅訪問を行い、利用者がホームに馴染み、安心してサービスを利用できるよう取り組んでいる。相談受付段階から家族、利用者話し合い、ケアチェック表に沿って、利用者の視点に立ったサービスが開始されるように努めている。</p> <p>職員は利用者と一緒に生活を楽しみながら、その人らしい生活が送れるよう喜怒哀楽の理解に努めている。また、園芸やおやつ作り、制作活動などを通して、一人ひとりが得意分野で力を発揮できる場面を設け、支えあう関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者や家族との話し合いや、日常のケア場面から得た情報をケアチェック表にまとめ、利用者一人ひとりの視点に立った、具体的な介護計画を作成している。</p> <p>家族や利用者が希望する医療機関を受診し、受診状況は全職員が把握している。定期的な受診を行うほか、24時間対応できる救急病院や協力病院に気軽に相談でき、適切な医療を受ける体制が整っている。受診結果を家族に報告するほか、個々の介護記録にファイルし、情報の共有を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を否定せず、入浴や排泄時の羞恥心にも十分配慮している。職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の記録物等は、事務室に適切に管理している。内部研修で声かけや対応について話し合うなど、より良いケアに向けて事業所全体で取り組んでいる。</p> <p>季節に合わせた地域の行事に参加したり、利用者の希望に合わせて、週1回は買い物に出掛けるほか、いつでも散歩に行ける外出支援を行っている。</p> <p>夜間、日中、休日を想定した避難訓練を消防署の協力のもと実施し、緊急連絡網を整備しているほか、具体的誘導策も作成している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解している。「安心して豊かな老後生活を送ることのできるホームの運営に努める」を理念に掲げ、重点目標5項目も盛り込んだ独自の目標も作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示したり、申し送りに唱和することで理念を全職員で共有し、安心・安全なサービス提供を心掛け、日々のケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	コミュニティの利用者やボランティア、体験学習の学生、介護・保育の実習生を受け入れている。地域資源の活用のため、文化祭へ作品を出展したり、大型ショッピングセンターに買い物に出掛けている。また、園長が市の評議員や学校の役員などを担っていることから、法人の夏祭には多くの住民の参加を得ている。また、利用者が買い物に出掛けると住民が気軽に声を掛けてくれるなど、地域交流に繋がっている。ホームに外部の方が訪れる際は、プライバシーの保護について説明するほか、利用者からも了解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価のねらいや活用方法の意義を理解し、評価結果を掲示している。自己評価はカンファレンス時等に全職員の意見を取り入れ、管理者が作成している。また、外部評価の結果を基に話し合い、今後のサービスに繋げるよう取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、出席出来ないメンバーには会議録を持参しており、会議中はメンバーから意見を引き出すよう、議題に沿って進行しており、自己評価や外部評価の結果を公表し、改善策についての意見交換を行い、サービスの質の確保・向上に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年3回発行している広報誌を市に配布し、自己評価や外部評価の結果も持参している。運営推進会議の内容を報告する際や、ホームの問題が発生した際は、利用者の利便性の向上や生活の質を高めるため、問題解決に向け連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人の内部研修やホーム内研修で、管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度についての概要を理解している。また、利用者や家族等に情報提供し、利用者の状況に応じて、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修後、内部研修を開催し、高齢者虐待防止関連法について理解を深める取り組みをしている。管理者は日々のケア場面を観察し、虐待のないケアを心掛けている。また、高齢者虐待を発見した場合の対応方法や流れについての取り決めマニュアルを作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は理念やケア方針などを、パンフレット等を用いて説明し、利用者や家族等の不安や疑問を引き出している。契約改訂時や退居時も十分に説明し、同意を得ている。退居時には、地域包括支援センターや病院等に相談したり、情報提供を行うなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日頃の生活状況や受診結果を、定期的に電話や広報誌で報告している。金銭管理は法人で管理しているが、出納帳や領収書についてはホームで記録・保管し、定期的に報告している。職員の法人内異動等については広報誌で報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には敬老会、収穫祭、夏祭等の行事への参加を呼びかけているほか、家族面会時等に意見や要望を聞くようにしている。ホーム内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示し、玄関にも掲示している。出された意見等は職員間で話し合い、ケアサービスの向上に活かしている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	数年に1回、法人内異動を行っており、日頃から法人内職員の交流を行うなど、異動による利用者への影響に十分配慮している。担当職員の異動や配置換え時には利用者の状態にあわせて十分説明しているほか、引継ぎの際は資料やOJTで行っている。新人職員の場合は、1週間程度マンツーマンで研修を行っている。(OJT:企業内で行われる職業指導手法)		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部研修や年2回の法人内研修、毎月1回のホーム内研修を行い、受講の際は業務に支障が無いように配慮するなど、職員の育成に取り組んでいる。研修受講後は復命書を作成し、回覧しているほか、カンファレンスで伝達研修を行い、全職員に周知している。職員の業務に関する助言をする人材を法人内に確保している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域のケア会議に参加し情報を得ている。また、研修会等に参加し、他のグループホームとの交流や連携を図り、日々のサービスの向上や職員育成に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や自宅訪問を行い、利用者がホームに馴染み、安心してサービスを利用できるように取り組んでいる。相談受付段階から家族、利用者話し合い、ケアチェック表に沿って、利用者の視点に立ったサービスが開始されるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活を楽しみながら、その人らしい生活が送れるよう理解に努めている。また、園芸やおやつ作り、制作活動などを通して、一人ひとりが得意分野で力を発揮できる場面を設け、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケア場面において、利用者の言葉や表情、行動から、利用者の視点に立った思いや希望、意向の把握に努めている。また、必要に応じて、本人のことをよく知っている家族や関係者から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者がその人らしく暮らし続けることが出来るよう、利用者の意見・意向を取り入れ、カンファレンス時に、職員の意見や気づきを反映させている。介護計画は必要に応じて、家族や関係者から情報収集しており、利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には実施期間を明示し、実施期間終了後は6ヶ月毎に見直している。毎月1回モニタリングしているほか、利用者の状態や、家族の希望に変化があった場合は、随時見直している。見直しの際は、利用者や家族、職員の意見を取り入れ、再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望で散髪は職員が行っている。2ヶ月に1度は外出に出かけ、選択メニューも実施している。また、散歩やドライブなど、積極的にホーム外に出るよう支援している。家族の希望に応じて、家族と利用者がホテルで宿泊するなどの支援も柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者が希望する医療機関を受診し、受診状況は全職員が把握している。定期的な受診のほか、気軽に24時間対応できる救急病院や協力病院に相談でき、適切な医療を受ける体制が整っている。受診結果を家族に報告するほか、個々の介護記録にファイルし、情報の共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応について、緊急対応マニュアルに沿って対応しており、利用者や家族等、医療機関と話し合いを行い意思統一を図っているが、重度化や終末期における、ホームの方針を明確にするまでには至っていない。	○	利用者は年々加齢に伴い、全身機能が低下していくので、重度化や終末期のケアについて方針を明確にすることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定せず、入浴や排泄時の羞恥心にも十分配慮している。また、利用者や家族等の意向に合わせて、名前の呼び方や声かけを行っている。職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の記録物等は、事務室に適切に管理している。内部研修で声かけや対応について事業所全体で取り組みしている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の言動を急かすこと無く、利用者優先のケアに取り組んでいる。また、食事時間等も利用者個々に合わせ、その日の希望や身体・精神状況に配慮しながら柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品アンケート調査を行い、選択メニューを実施するなど、2ヶ月に1回は外食している。利用者の個々の状態や意思に応じて、後片付けなどを職員と一緒にやっている。職員は食べこぼし等への支援をしながら、利用者と一緒に同じ食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回となっており、希望に応じて入浴回数を増やしたり、好みのシャンプーを使用している。利用者は2名ずつ入浴し、入浴に対する羞恥心や安全面に配慮し、同性介助を基本とした支援を行っているほか、入浴を拒否する際は、順番を替えるなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、ゴミ捨て、玄関や洗面所の掃除など、毎日自分の役割として楽しんでおり、職員は見守り等の支援をしている。また、散歩、塗り絵、園芸、衣装がえ、買い物、輪投げ、栗拾い、外食など、楽しみごとや気晴らしに繋がるよう、働きかけている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に合わせた地域の行事に参加したり、利用者の希望に合わせ、週1回は買い物に出掛けるほか、いつでも散歩に行けるよう外出支援を行っている。外出の際は、利用者の身体状況に合わせ、リフト車を使用したり移動距離に配慮するなど、その日の体調に合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は身体拘束について法人全体で取り組み、拘束をしない姿勢で日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行う場合は、理由や期間などマニュアルに沿って、家族に説明し同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はセンサー付き自動ドアにて自由に入出りできる。非常口も施錠していない。職員はリビングから玄関を見守りし、利用者が外出する際は付添っている。無断外出に備え地域住民に協力を呼び掛け、警察や消防から協力が得られているが、やむを得ず施錠を行う場合に、家族等に説明し、同意を得る体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず施錠を行う場合に備え、家族等に説明し、同意を得る体制を整えることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間、日中、休日を想定した避難訓練を消防署の協力のもと実施し、緊急連絡網を整備しているほか、具体的誘導策も作成している。ホーム内に災害時備蓄品を数日分用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成しており、1日の総摂取カロリーを約1500キロカロリー、水分は約1500ccを目安としている。また、摂取量を全員利用者毎に毎回記録している。法人全体で月1回給食・保健会議を開催し、栄養士から指導・助言が得られる体制となっている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症毎にマニュアルを作成しており、新しい情報に応じて追加している。マニュアルは必要に応じて見直し、定期的に学習の機会を設けている。感染症に関する情報は、広報誌等で家族に周知しているほか、インフルエンザの予防接種を行うなど、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口には観葉植物が置かれ、共用空間は天窓で明るい。バリアフリーのリビングダイニングには、ソファやテーブルがあり、家庭的な雰囲気を保てるよう配慮している。また、季節を感じさせる製作物や絵画、利用者のスナップ写真を飾るほか、職員の話し声や物音、テレビや音楽の音量も適切で、居心地の良い空間となるよう努めている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の働きかけで、居室には馴染みの家具や調度品が置かれている。また、利用者の好みに合わせて写真や時計、花を飾るなど、職員と一緒に居心地の良い居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。